

# 日税FPメルマガ通信



2025年3月21日発行

編集: 税理士 FP 実務研究会事務局

(株)日税ビジネスサービス

東京都新宿区西新宿 1-6-1 新宿エルタワー29階

第429号

## ◆5,000 万円の資産運用におすすめの方法 9 選！ 何年で 1 億円になる？

5,000 万円の資金を上手に資産運用すれば、1 億円にまで増やすことも夢ではないと言われています。ただし、投資にはリスクがつきものです。せっかく貯めた 5,000 万円を減らさないためには、安定的な資産運用でいくら増やせるのかを考えてみてはいかがでしょうか。

今回は、5,000 万円の資産運用について、基本的な考え方や注意点、おすすめの方法を紹介します。

### 1. 5,000 万円あったら投資はいらない？

5,000 万円という金額は、一見すると老後資金として十分な額に思えます。そのため、リタイアしてのんびり老後を過ごそうと考える方もいるかもしれません。しかし、本当にそれで良いのでしょうか。

総務省統計局が発表した「[家計調査\(2023年\)](#)」出典: 総務省統計局によると、1ヶ月あたりの消費支出の平均額は総世帯で 247,322 円、単身世帯で 167,620 円です。仮に夫婦の公的年金を月 15 万円とした場合、差額の約 97,000 円を預貯金から捻出するのであれば、5,000 万円を切り崩しながら夫婦 2 人で約 43 年間暮らせる計算となります。

しかし、この支出額はあくまでも平均値であり、必ずしもこの通りとは限りません。例えば都心で暮らす場合、家賃や水道光熱費、スマホ代を含む生活費として、夫婦 2 人で 30~35 万円が必要だと考えられています。また、住宅ローンや教育ローンの支払いが残っている場合、5,000 万円から返済をするか、または毎月の支出額に加えて支払う必要があるでしょう。

5,000 万円の預貯金があったとしても、毎月 15 万円ずつ切り崩していけば約 27 年で、20 万円ずつ切り崩していけば約 20 年で底をついてしまうのです。

仮に預貯金が 5,000 万円ある場合でも、それだけで一生豊かに暮らせるとは限りません。今手元に 5,000 万円の資産がある方こそ、投資の重要性は高いと言って良いのではないのでしょうか。

## 2. 5,000 万円の資産運用におすすめの方法

5,000 万円の資金があれば、上手に資産運用することで 1 億円を目指すことも可能です。しかし、短期間で大きく増やそうと思うと、その分失敗したときのリスクも大きくなってしまいます。

ここからは、5,000 万円の資産運用を始めるときにおすすめの方法を9つ紹介します。リスクとリターンのバランスを考慮して、ご自身に合った方法を選択しましょう。

### 1. 投資信託

投資信託は、運用をプロに任せられるため、初心者でも始めやすい資産運用の方法です。

株式や債券、不動産などさまざまな資産に分散投資が可能で、リスクを抑えながらリターンを狙えるのがメリットです。

NISA 口座を活用すれば運用益が非課税になるため、より多くの利益を得やすくなります。

一方で、信託報酬や購入時手数料などコストがかかる点や、元本保証ではないため、投資成績によっては損をする可能性がある点には注意しましょう。

投資信託の平均的な利回りは、3%～10%程度です。

利回り 5%でシミュレーションすると、5,000 万円の資産は約 15 年で 1 億円になります。

投資額	1年後	5年後	10年後	15年後	20年後
5,000万円	5,250万円	6,381万円	8,145万円	1億395万円	1億3,267万円

※あくまでシミュレーションであり、実際の投資結果とは異なります

※複利計算（1万円以下四捨五入）

※手数料・税金は考慮されていません。

### 2. 債券投資

債券投資は、リスクを抑えて資産運用したい方に向いている方法です。

債券とは、国や地方公共団体、企業などが投資家から資金を借り入れるために発行する証書（有価証券）のことです。投資家は発行体に対して資金を貸し、利子を受け取ります。

満期時には額面金額が返還されるため、途中で売却しない限り、元本割れのリスクが低いのが特徴です。

10 年国債の平均利回りは 0.3%～0.8%ですが、社債の場合は、もう少し利回りが良くなるケースが多いです。

利回り 1%でシミュレーションすると、5,000 万円の資産は 20 年後に約 9,000 万円に達しますが、1 億円には届きません。

投資額	1年後	5年後	10年後	15年後	20年後
5,000万円	5,150万円	5,796万円	6,720万円	7,790万円	9,031万円

※あくまでシミュレーションであり、実際の投資結果とは異なります  
 ※複利計算（1万円以下四捨五入）  
 ※手数料・税金は考慮されていません。

### 3. 株式投資

株式投資は、リスクは高いものの、成功すれば大きなリターンを狙える手法です。

株式会社が発行する株式を購入し、株価の値上がりや配当金によって利益を得る仕組みとなっています。

ただし、株式市場は変動が激しいため、慎重な銘柄選びが必要です。

「テンバガー（10倍株）」のように、株価が急成長する銘柄を見つけると大きな利益が期待できますが、逆に株価が下がれば損失を被る可能性もあります。

株式投資の平均利回りは5%~7%と言われています。

利回り5%でシミュレーションすると、5,000万円の資産は約15年で1億円に増やすことができます。

NISA口座を活用すれば、売却益に対する税金が非課税になるため、さらに効率的に運用できるでしょう。

投資額	1年後	5年後	10年後	15年後	20年後
5,000万円	5,250万円	6,381万円	8,145万円	1億395万円	1億3,267万円

※あくまでシミュレーションであり、実際の投資結果とは異なります  
 ※複利計算（1万円以下四捨五入）  
 ※手数料・税金は考慮されていません。

### 4. 不動産投資

不動産投資は、比較的価格が安定しているため、堅実な資産運用の方法だと言われています。

土地や建物などの不動産を購入し、賃貸収入や物件の値上がりによる売却益を狙う投資手法です。

不動産投資ローンを利用する場合は、「団体信用生命保険（団信）」が付帯されることが多く、投資家が亡くなった際にローンが免除され、遺族に資産が残るというメリットがあります。

ただし、空室リスクや金利変動の影響を受けやすいため、事前のリスク管理が重要です。また、長期的な視点が必要で、物件の選び方が成果に直結するでしょう。

不動産投資の平均利回りは2%～5%程度です。

利回り3%でシミュレーションすると、5,000万円の資産は約20年後に9,000万円になります。25年後には1億円まで増加するでしょう。

投資額	1年後	5年後	10年後	15年後	20年後
5,000万円	5,150万円	5,797万円	6,720万円	7,790万円	9,031万円

※あくまでシミュレーションであり、実際の投資結果とは異なります

※複利計算（1万円以下四捨五入）

※手数料・税金は考慮されていません。

## 5. 不動産小口化商品

不動産小口化商品とは、不動産を一口100万円～1,000万円程度に小口化して販売し、得られる賃料収入や売却益を投資家に分配する商品です。

現物不動産ほど高額な資金がかからず、複数の物件に分散投資できるため、リスクを軽減しながらリターンを見込めます。

不動産の管理はプロに任せられるため、手間がかからないのも利点です。

ただし、通常の不動産投資と同様に空室リスクがあり、賃料や元本保証はありません。

さらに、ローンを組むことができないため、全額自己資金での投資となる点に注意しましょう。

不動産小口化商品の平均利回りは2%～7%程度です。

利回り4%でシミュレーションすると、5,000万円の資産を約20年で1億円に増やすことができます。

投資額	1年後	5年後	10年後	15年後	20年後
5,000万円	5,200万円	6,083万円	7,401万円	9,005万円	1億956万円

※あくまでシミュレーションであり、実際の投資結果とは異なります

※複利計算（1万円以下四捨五入）

※手数料・税金は考慮されていません。

## 6. ソーシャルレンディング

ソーシャルレンディングは「融資型クラウドファンディング」とも呼ばれ、企業が資金を借りるために、インターネット上で個人投資家から資金を集めるサービスです。

個人投資家（レンダー）は、企業（ボロワー）に資金を貸し、利息を得る仕組みです。

少額から投資できるため、1万円程度の金額からスタートできるのが魅力です。

また、3ヶ月や半年など、短期間で償還を迎える案件が多いため、資金の回転が早く、気軽に投資ができるというメリットもあります。

一方で、ソーシャルレンディングは流動性が低く、途中解約ができないため、必要なときに資金を引き出せないリスクがあります。

また、元本保証がないため、企業が返済できなければ損をする点に注意しましょう。

ソーシャルレンディングの平均利回りは、2～7%程度です。

投資額	1年後	5年後	10年後	15年後	20年後
5,000万円	5,200万円	6,083万円	7,401万円	9,005万円	1億956万円

※あくまでシミュレーションであり、実際の投資結果とは異なります  
 ※複利計算（1万円以下四捨五入）  
 ※手数料・税金は考慮されていません。

### 7. ラップ口座（ファンドラップ）

ラップ口座（ファンドラップ）は、金融機関にまとまった資産を預け、運用を専門家に一任できるサービスです。

自分で個別銘柄を選ぶ手間がなく、効果的な分散投資ができるため、投資初心者や資産運用に手間をかけたくない方に向いています。

プロに運用を任せることで、リスク分散や長期的な資産形成を期待できますが、その分、管理手数料がかかる点がデメリットです。

プロが運用するとは言え、市場の状況によっては、元本割れのリスクもあります。また、ラップ口座で運用する場合、多くのケースでNISA口座を活用できません。

ラップ口座（ファンドラップ）の平均利回りは、3%～5%程度です。

利回りを4%でシミュレーションすると、5,000万円の資産は約20年で1億円に増やすことができます。

投資額	1年後	5年後	10年後	15年後	20年後
5,000万円	5,200万円	6,083万円	7,401万円	9,005万円	1億956万円

※あくまでシミュレーションであり、実際の投資結果とは異なります  
 ※複利計算（1万円以下四捨五入）  
 ※手数料・税金は考慮されていません。

### 8. プライベートバンク

プライベートバンクは、富裕層向けの資産運用サービスで、きめ細かいサポートや高度な資産管理が提供されます。

特に情報の秘匿性や信頼性が高く、個々のニーズに合わせた長期的な資産運用を行えるのがメリットです。

しかし、富裕層向けのサービスであるため、利用には一定以上の資産が必要です。

多くの場合、1億円以上の資産を保有している方が対象となります。

手数料が高い点もデメリットですが、それに見合う専門的なアドバイスが受けられるでしょう。

プライベートバンクの平均利回りは、5～10%とされています。



利回り 8% でシミュレーションすると、5,000 万円の資産は約 10 年で 1 億円になり、20 年後には 2 億円に増えます。

投資額	1年後	5年後	10年後	15年後	20年後
5,000万円	5,400万円	7,347万円	1億795万円	1億5,861万円	2億3,305万円

※あくまでシミュレーションであり、実際の投資結果とは異なります

※複利計算（1万円以下四捨五入）

※手数料・税金は考慮されていません。

### 9. ヘッジファンド

ヘッジファンドは、あらゆる市場状況でも利益を追求することを目標にしたファンドです。

通常の投資信託とは異なり、私募形式で運用されるため、適格投資家と呼ばれる大口投資家しか投資することができません。

ヘッジファンドの最大の特徴は、市場の上昇局面でも下落局面でも利益を追求する点ですが、その分リスクが高い運用方法です。

非常に高い利回りが期待できる一方で、手数料が高く、売買機会が限られることから流動性が低いというデメリットもあります。

ヘッジファンドの平均利回りは、10%前後だと言われています。

利回り 8% でシミュレーションすると、5,000 万円の資産は 10 年後に 1 億円、15 年後に 2 億円、20 年後には 3 億円に増えることとなります。

投資額	1年後	5年後	10年後	15年後	20年後
5,000万円	5,500万円	8,053万円	1億2,969万円	2億886万円	3億3,638万円

※あくまでシミュレーションであり、実際の投資結果とは異なります

※複利計算（1万円以下四捨五入）

※手数料・税金は考慮されていません。

## 3. 5,000 万円の資産運用を始めるときの注意点

5,000 万円の預貯金があったとしても、全額投資に回すことはおすすめできません。

日常の生活費や近い将来必ず必要になる資金、いざと言う時の準備資金として預貯金に残したうえで、すぐに使わない余剰資金のみを投資に回すのが、基本的な資産運用の始め方です。

5,000 万円のうち投資に回す割合は、年齢が目安になるとされています。

20 代なら 5,000 万円の 20% で 1,000 万円、30 代なら 1,500 万円は、預貯金に残しておくといいでしょう。

もちろん、リタイアはせず継続的に収入があるなど、リスク許容度が高い場合は、預貯金の比率をもう少し下げても良いかもしれません。

また、リスクを抑えつつ、資産を効率的に増やすためには、分散投資が不可欠です。

複数の投資対象に資金を分散することで、1つで損失が発生してもほかでカバーできる可能性があり、リスクを抑えることにつながります。

## 4. まとめ

5,000万円という資金があれば、上手に資産運用をすることで1億円を目指すことも可能です。

しかし、自己運用で5,000万円を1億円に増やすとなると、どうしても利回りの高い金融商品を選びたくなってしまいます。利回りの高い商品にはその分リスクもあり、一歩間違えばせっかく貯めたお金を減らしてしまうことになるので注意が必要です。

長期的な視点で資産運用をするなら、利回りだけではなく、市況や将来性、リスクにも注目するなど、さまざまな視点から最適と考えられる投資対象を見極める必要があるでしょう。

5,000万円をもとに資産運用を始めたいけれど、投資対象の選び方が分からない、できるだけリスクの少ない安全な資産運用がしたいという場合は、お金のプロに相談することを検討してみてください。

### <著者プロフィール>

福田 猛 氏

ファイナンシャルスタンダード株式会社 代表取締役

大手証券会社入社後、10年間、1,000人以上の資産運用コンサルティングを経験。2012年IFA法人であるファイナンシャルスタンダード株式会社を設立。独立系資産運用アドバイザーとして数多くのセミナーを主催し、幅広い年齢層の顧客から支持を受け活躍中。

著書に「金融機関が教えてくれない 本当にお金を儲けるべき投資信託」(幻冬舎)がある。

2015年楽天証券IFAサミットにて独立系ファイナンシャルアドバイザーで総合1位を受賞。

■■■■■ 著作権 など ■■■■■

著作権者の承諾なしにコンテンツを複製、他の電子メディアや印刷物などに再利用(転用)することは、著作権法に触れる行為となります。また、メールマガジンにより専門的アドバイスまたはサービスを提供するものではありません。貴社の事業に影響を及ぼす可能性のある一切の決定または行為を行う前に必ず資格のある専門家のアドバイスを受ける必要があります。メールマガジンにより依頼することによりメールマガジンをお読み頂いている方々が被った損失について一切責任を負わないものとします。

### 参考

経済金融情報メディア「F-Style」:<https://fstandard.co.jp/column/>

“F-Style”とは？

人々の暮らしと密接に関わる「お金のヒミツや仕組み」を、より分かりやすくお伝えする経済金融メディアです。